

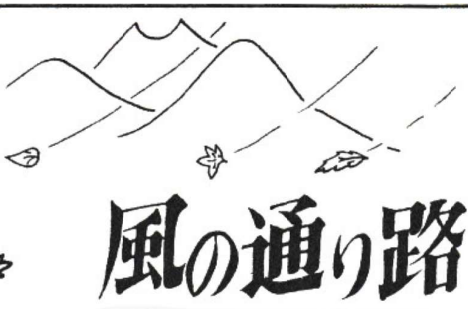
はじめまして、私は「風路」です

みなさん、はじめまして。私たち(私と夫)は「山歩き好き」が高じて、来年の春に小淵沢に居を構える予定の「変な夫婦」です。ゆくゆくは四季折々の八ヶ岳、南アルプス、周辺の山々の情報をこの通信にこめてお届けしたいと思えます。私たちのモットーはゆっくり、楽しく、安全に、グルメに！です。この便りがどのように育っていくか、不安と期待をこめて、いま創刊号を書いています。長く出しつづけることを最大の目標に肩を張らず私たちの見たまま、聞いたままを書いていきたいと思えます。

黒戸尾根 甲斐駒ヶ岳に登る

今回は、8月22日から25日にかけて黒戸尾根から頂上、仙水峠を経て北沢峠に下った山行の報告です。私たちの住む予定の土地の正面にそびえ

る甲斐駒ヶ岳に登って、山頂から逆に眺めてみたい、というのが目的でした。



風の通り路

八王子市元八王子2-998 佐藤方「風路」

夫が去年の秋にくも膜下出血で入院・手術をした後、初めての本格的な山行というこどもあつて、日程は超々スローペース。前夜に駒ヶ岳神社近くのペンションに泊まり、翌朝出発、5合目小屋泊。2日目は頂上から仙水小屋泊、3日目下山。(ほんとうは夫の病気は口実で、私がおすくペーが遅いのに加えて、あれも食べたいこれも食べたいとザックは膨らむばかり・・・これが、亀の歩み山行の真実です。)



静かな樹木帯の登り

22日 麓のペンション・アルペンブロー泊。静かな赤松林の中の宿でした。

23日 「山に登る人はこんなところには泊まりませんよ」とペンションのオーナーに笑われながら、登山道の入口の尾白川溪谷駐車場まで車で送ってもらおう。夏休み期間は1日に4便が葦崎駅から出ている。

午前6時半、さあ出発です。5分ほど歩くと尾白川のキャンプ場、さっそく売店でビールを買う。キャンプ場のわきを通りぬけるとすぐに駒ヶ岳神社がうっそうとした木立の甲に見えます。鳥居前の尾白荘は閉鎖中とか。「渴水のため上には水がないのでここで禰給していくこと」と看板がでていたので、鳥居わきの水

場で水を補給。

神社を右に見て、尾白川にかかった吊り橋を渡ると樹林帯の登山道です。10分ほどで尾白川溪谷の遊歩道との分岐、さらに20分ほど行くと再び遊歩道との分岐。気持ちのよい樹林帯をさらに高度を上げていきます。木々の間から尾白川溪谷をはさんで日向(ひなた)山や背後に八ヶ岳が見え隠れしますが、ほとんど展望はありません。途中2カ所登山道の崩壊場所を慎重に通過、粥餅(かゆもち)石の水場に出ました。比較的きれいなトイレあり。前日までの雨があつたせい、わずかですが水が溜まるとか、わすかですが水が湧いていました。

ザル☆山行

私たちが山行で必ず作るのがスパゲッティ。材料はスパゲッティ(最近発売された25cmの短い麺が茹でるのに便利です)たまねぎ、ピーマン、きのこなどありあわせの野菜(ペーコンがあれば最

高)、携帯用の袋詰めケチャップ、粉チーズ。塩少々、湯で麺を茹で、ゆで汁はとっておく。野菜を炒め麺に混ぜる。好みの量、ゆで汁を加え、ケチャップをからめ、チーズをかけて出来上がり。サラダでもあれば豪華なランチになります。

鎖と梯子は大嫌い



ザル

先にわずかに開けた展望台があり、小休止。ガイドブックでは2時間の行程ですが、やはり1年ぶりの山行、途中で何回も休憩をとったため、この時間になってしまいました。

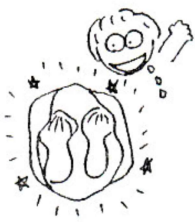
ここから刀利(とうり)天狗まで長くきつい登りが続きます。急登に入るや早くも息があがる2人です。数分歩いて息を整え、黙々と登りまして。途中に昼食をはさんで12時半ころ、黒戸尾根の最初の難関・刀渡りの嶮に出ました。私は鎖と梯子は大の苦手、腰がひけて他人には見られたくない恰好でなんとか渡る。

刀渡りの後は岩のやせ尾根が続く、その後に木製の梯子が登場。「なるべく体を離して登るように」と夫は言うけれど、そうするとザックの重さで後ろにひっくりかえるのでは、という恐怖にかられた。ただだしがみついで登る。やつと狭い刀利天狗に到着。小休止の後、黒戸山の北を巻

く平坦な道を進み、最後にすこし下って5合目小屋に到着しました。黒戸尾根はやはり時間がかかるせいでしょいか、登山者はすくなくないよう、この日は私たちだけでした。下りてきた人も2組でした。当然小屋に泊まるのは私たちが静かな山行が好きな方にはピッタリのコースです。

採りたての松茸

小屋につくやいなや、さっそくビールを求め乾杯！このために登っているようなものです。インスタントラーメンをつまみにポリポリやろうとしたところ、小屋番のおじさん(お名前は伺えませんでした)が「いま、つまみ焼いてつからよう」と、出してくれたのが、なんと「今朝とってきたばかりの松茸」のホイ



「地のもの」など何

年も食べてない2人、「ああ、この香り、この歯ごたえ！」夜の食事、牛肉の味噌ステーキをメインにという当初のプランでしたが、私たちの味噌汁の中に茸をたくさん入れてくれたので、メインはな

(裏へ続く)

(表から続く)
んともぜいたくなきのこ汁になつてしまいました。

この日は上のほうは雲の多い1日で、甲斐駒や鳳凰がときおり姿を見せるほど。それでも5合目小屋からみる甲斐駒は垂直にそり立つよううで、これをのぼるのかと内心おだやかではありません。甲斐駒の向こうに夕日が落ちるころ、南側の鳳凰3山に夕日があたり、山が黄金色に光る素晴らしい光景を見ることができました。

再び鎖と梯子



24日 翌朝は4時40分、まだ薄暗い中を出発。「これ持っていくな」とまたまた大きな松茸をおみやげにいただいてしまった。「この時間に出れば9時山頂で、午後の北沢峠発のバスにまにあうよ」という言葉に、「仙水小屋に泊まる予定」とは恥ずかしくてとうとう言えずに出発。荒れて床も落ちてしまった5合目小屋のすぐ下の屏風小屋の脇をぬけると、すぐに私の大嫌いな梯子です。それも垂直に近いものや下が切り立った断崖にかかっているものなど、次から次に登場。それでなくとも朝弱く、体も起きてない私は泣きたい思いでしがみつ

き登りです。鎖と梯子をなんとかのりこえて、6時すぎに7合目小屋に着きました。

ここで朝食。再び梯子と鎖の道を登り、8時半ころに8合目の鳥居と石碑のある後来迎場に着きました。さすが信仰の山、途中の岩々に石碑や刀剣、地藏仏などが立ち並んでいました。晴れていれば八ヶ岳から鳳凰、白峰などが見渡せるところですがほとんど雲の中、時折山頂の付近の雲が切れて望める程度で残念でした。

鳥居をくぐって、目の前にそり立つ刀剣の立った大岩の左側を回り、鎖をよじのぼって岩場の稜線を行くと、もう山頂は間近です。駒ヶ岳神社の本社をすぎ、摩利支天への分岐をすぎると、すぐ山頂に着きました。

やった、山頂です



10時半、やりました！。ついに甲斐駒ヶ岳に登りました。山頂には北沢峠方面からの登山者がたくさんいました。残念ながら、周囲は雲に覆われ、ときおり摩利支天が姿をみせるくらいで、展望は開けず、当初の山頂から私たちの住む所を眺めるという目的は次の機会に、ということになりました。

きょうは仙水小屋まで着けばいいということで、慌ただしく山頂から下りる登山者を尻目にゆつくりと昼食。私たち定番のスパゲッティ。正午すこし前に出発。黒戸尾根方

向から西南に山頂を越えてゆけば駒津峰へ真っ直ぐに下りる道ですが、ヒイヒイと岩場をよじ登ってきた私はすこし戦意喪失で、比較的楽な摩利支天への分岐を回るコースを選びました。山頂から里戸尾根をわずかにバックして摩利支天への分岐に入り、白ザレの急な道をジグザグと下り、山頂からの直登のコースと合流します。ここが六方石(ろつぼういし)。ここからしばらくやせた岩尾根を登って、駒津峰に着きました。

ここで小休止。時折雲が切れて見える甲斐駒ヶ岳は、登ってくるのときに見えた木々の緑に覆われた姿とは対照的に白い砂と岩に覆われたたくましく美しい姿で、登ってきた感慨にひたりながら、しばし時のたつのを忘れず。

きつい峠への下り

駒津峰から双児山を越えて北沢峠に至る道と分かれ、仙水峠への道に入りました。ガイドブックでは下り1時間の仙水峠への下り、これがえら

くきついものでした。怖い所はありませんが、中間地点あたりに1カ所わずかに平坦な道があるほかはずっと急な下りです。登りもきつくと大変だろうと思いましたが、(あとで仙水小屋で双児山のコースから登り、このコースを下った人に話を聞きましたが、双児山コースのほうがまだ楽だったと言っていました)

仙水小屋はグッド

足が棒のようになってやると仙水峠に着き、ゴロゴロと岩の折り重なる道をしばらく下ると仙水小屋に着きました。私たちは自炊でしたが、この小屋の食事はなかなかのものと見ました。お弁当もおかずがしっかり付いていておいしそうでした。トイレもとてもきれいでこれが山小屋かと思うほど。ただひとつの難点は、この小屋の名物(?)のCD。

たぶん傷がついていたのでしよう、就寝後にピツピツという雑音が続いて眠れませんでした。

快適な沢ぞいの道

25日 私たちは朝9時45分の北沢峠発のバスに間に合うように発てばよかったのですが、泊まりの人はみな登りで、当然のことながら、小屋もてあましてしまいました。小屋の人たちのじやまになっても悪いと思い、5時半ごろに出発。6時すぎには峠に着いてしまいました。

小屋からの道は北沢ぞいのとても気持ちのよい道で、甲斐駒ヶ岳までは自信がないという人でも、仙水小屋まで歩いてだけでも十分楽しめる気がしました。朝食のソーめんを食べ、バスの時間まであたりをぶらぶら散策。北沢峠の林

道沿いにはみごとなダケカンバ、ナナカマド、ツガ、シラバなどが群生しています。3時間近く待ってバスで広河原へ出て帰路に着きました。

紅葉は9月下旬



私たちが登ったのは8月下旬でもう可憐な草花の季節は終わってしまいました。わずかに日陰の湿った場所にセリバシオガマ、カニコウモリなどの地味な花、トリカブト、ヤナギラン、シシウドの仲間、ホツツジなどが見られました。

これからは紅葉の季節、見ごろは5合目の小屋番のおじさんによれば、9月25日から10月5日ころとか。甲斐駒ヶ岳は針葉樹と広葉樹が入り乱れているので、全山紅葉というわけにはいかないそうです。それがそれだけで険しい岩肌と緑と赤黄のコントラストが見事だ、と言っていました。

風路って?

この通信を出ずにあたって私たちは名前をどうしようかと色々悩みました。そして高山に咲く可憐な花、ハクサンフウロから採って

フウロにしよう、ということになりました。漢字では風露。茎に羽毛のような刺があり、それが雨に濡れると露になって揺れるさまを表したそうです。とてもロマンチックな名前ですね。八ヶ岳にはその兄弟のグンナイフウロが多く見られま

す。また、私たちが来春移り住もうとしている八ヶ岳の南麓が、ちょうど八ヶ岳から南アルプスへ風が渡っていき、その通り道風路のように感じられたのです。そんなわけで、風露と風路をかけて、字のほうは「風路」にしました。